

言葉と防犯

東広島市立中央中学校

一年

上治 かみい

華実 はなみ

「死ぬ。消える。くず。…」

人を傷つける言葉は、毎日、日本のどこかで使われている。人はなぜ、このような言葉を発するのか。相手の立場に立って、どう感じるのか考えてみたら、このような言葉は、減り、犯罪も減るのだろうか。

人が発する言葉は、大きな影響力を持つ。内容次第では、犯罪に結びつく。発した言葉

が原因となり、結果、加害者や被害者が生まれる。私が一番身近に感じるのは、「いじめである。私の友人も、外国人だからという理由で、言葉による「いじめ」を受けていたことがあつた。いつも笑顔だった彼女は、心ない言葉によって、ある日笑顔を失ってしまった。私には、彼女のような被害者はどうなるんだろうと考えた。「いじめ」を受けた多くの被害者は、つらく、悲しい気持ちとなり、暗いトニネルの中をさまようのではないかと。

加害者は、なぜ「いじめ」をするのか。その一因は、仲間が欲しかったからではないか、と考えた。日本人はなぜか、仲間を作るために、誰かを仲間外れにすることがある。相手の悪いところ、欠点を見つけることは、意外と簡単だ。そのことをきっかけにして、誰かを仲間外れにし、傷つけることで、仲間意識が生まれる。でも、それは、真の仲間ではないと私は思う。悪口を言うこと、人を傷つけることで、つながった仲間は、すぐにこわれてしまう。では、人を傷つけることなく仲間を作るにはどうすれば良いのか。それは、「明るく、笑顔で、ありのままの自分で勇気を出して話しかけること」だと思う。周りを幸せな気持ちにさせる人の周りには、人が集まってくる。と信じている。ありのままの自分を出してつながった仲間こそ、真の仲間だと私は思う。

被害者となつてしまった人の中には、「自殺」という取り返しがつかない結果となる方

を、選択する人達がいる。「自殺」は、防ぐ
ことが出来るのだろうか。私は、「自殺」の
サインを見逃がさなければ、きっと「自殺」
は防げると思う。親や友達などの周囲にいる
特別な存在の人達は、必ず、手をさしのべて、
「自殺」という選択をさせないと思うから。
しかし、現実には、「自殺」はなくなる
なぜなのか。それは、周囲が「自殺」のサイ
ンに気付かないということが多いからだ。そ
の理由として、被害者本人は周囲に心配をか
けまいと、一人で悩み、誰にも相談できな
いまま、「心のやみ」の中に落ち込んでしま
うということだ。私は、被害者は「勇気を出
して、周囲にいる家族や友達などの特別な存在
の人達に話すこと」が大切だと思う。絶対、
手をさしのべてくれるから。このことが出来
れば、「心のやみ」の中から抜け出し、「自
殺」という最悪の結末には、至らなくて済む
と思う。

自分の周りには、必ず自分を大切に思っ

くれている人がいると、私は思っている。ふ
だんから私達は家族や友達などの周りの人に
支えられながら生活、そして、生きていると
思う。そのため、自分が相談できる人、信頼
出来る人を作るために、日頃から、コミュニ
ケーションをとることはとても大切だと思う。
いざという時話せる人、自分が間違っていた
ら、止めてくれる人の存在は必要だと思う。
その人達の存在は、「いじめ」をはじめとす
る犯罪を防止できるだろう。だから、加害者

も被害者も、「周りの人と日頃からコミュニ
ケーションをとって、困ったことがあれば、周
りの人に相談すること」が大切だと私は、思
った。

言葉は大きな影響力を持つ。自分の人生や
他の人の人生までも変えてしまう力を持つ。
言葉は人を傷つけることもある。一方で、救
われることもある。使い方を間違えさせない
ければ、言葉は素晴らしい「人間の宝」であ
る。伝えたいことは、言葉にしなければ分か

らなれは、ことばは沢山ある。だからこそ、私は、
言葉を大切にしていきたし、全ての人に正
しく言葉を使って欲しいと願っている。そう
すれば、きっと犯罪は減ると思う。